

いい環境で志賀の米

農業法人 水田調査特A狙う

米の生産加工販売を「環境にお墨付きを与える」こと、食の安全確保を手掛ける志賀町の農業法人「ゆめつらら」が、水田環境の格付け「環境特A地区」の取得を目指し、認定する民間団体「米・食味鑑定士協会」の現地調査を受けた。

格付けは、水田周辺に生息する生物の多様性などを基に、米の品質を判断。一定の昆虫や魚類がすめる水田環

境にお墨付きを与えることで、食の安全確保を図る。最高の「環境特A地区」と「環境A地区」の二段階ある。制度は、国産米の消費拡大に取り組む協会が、二〇〇五年にスタート。特Aには全国で百三十四件、県内では七尾、珠洲市、能登町で二件が認定されている。

ゆめつららが認定を目指すのは、仏木の一筋と谷屋の六十坪で、農薬、化学肥料を使わない米作りに取り組んでいる。現地を訪れた鑑定士は生物の生息状況や水質を調べた。

調査結果は、八月にも出る見通し。裏貴大社長（左）は「認定で目指すのは地域のブランド化。いい環境で育った米を味わってもらえば、地域に目を向けてもらおうきっかけになる」と話した。

2013年(平成25年)6月20日(木曜日)

(渡辺大地)